

中学校 国語

俳句の学習において語彙力を高める指導法の研究  
—意味マップを取り入れたワークシートの活用を通して—

義務教育課 研究員 對馬 宏 和

要 旨

本研究は、俳句の学習において、意味マップを取り入れたワークシートを活用することによって、語句の「辞書的な意味」を理解する力と「文脈上の意味」をとらえる力を向上させ、生徒の語彙力を高めるといふものである。そのため、語彙力とはどのような力かを明らかにするとともに、俳句の鑑賞・創作場面において学習活動を工夫し、意味マップを取り入れたワークシートを活用した。このことにより、生徒の語彙力が高まった。

キーワード：中学校 国語 語彙力 俳句 意味マップ

I 主題設定の理由

「これからの時代に求められる国語力について」（文化審議会答申 平成16年2月3日）において、「国語の語句・語彙力の育成が重要である。人間の思考は言葉を用いる以上、その人間の所有する語彙の範囲を超えられるものではない。情緒力と論理的思考力を根底で支えるのが語彙力である」と述べられている。また、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」（中央教育審議会答申 平成20年1月17日）においては、「自分や他者の感情や思いを表現したり、受け止めたりする語彙や表現力が乏しいことが、他者とのコミュニケーションがとれなかったり、他者との関係において容易にいわゆるキレてしまう一因になっており、これらについての指導の充実が必要である」と述べられており、語彙指導の重要性が指摘されている。私も実際、生徒の会話や作文の表現などから語彙力の不足を感じていた。

これまでの自分自身の語彙指導を振り返ると、教材ごとに漢字の練習をさせてテストを行ったり、調べる語句を表にして語句調べをさせたりして、知識として語彙量を増やそうというものだった。しかし、学習した語句が知識として定着せず、その後の生徒の言語活動には生かされていなかったように思う。そこで、語彙力とは何か、どのような学習活動をすれば高まるかについて研究をすることにした。

教材としては俳句を選択した。俳句は十七音という限られた音数のため、作者は伝えたいことを的確に表現できるように語句を吟味している。そのため、俳句中の語句の意味や効果を生徒に検討させることで、語彙力を高める学習ができるのではないかと考える。その際、学習に用いるワークシートに意味マップを取り入れ、生徒の語句についての知識や考えを拡充したり整理したりすることが効果的ではないかと思われる。

以上のことから、俳句の学習において、意味マップを取り入れたワークシートを活用することで生徒の語彙力を高めることをねらいとし、本研究の主題を設定した。

II 研究目標

俳句の鑑賞・創作の学習において、意味マップを取り入れたワークシートを活用して、語句の「辞書的な意味」を理解させるとともに「文脈上の意味」をとらえさせることにより、生徒の語彙力が高まることを実践を通して明らかにする。

III 研究仮説

俳句の鑑賞・創作の学習において、意味マップを取り入れたワークシートを次のように活用することにより、生徒の語彙力が高まるだろう。

- ・「辞書的な意味」を理解させるために、作品中の語句について、生徒の既有知識と辞書に記述されている語句の意味、類義語や対義語などを関連付けさせる。
- ・「文脈上の意味」をとらえさせるために、作品中の語句と語句の結び付きによる意味を考えさせ、作品の情景を記述させる。

#### IV 研究の実際とその考察

##### 1 語彙力のとらえ方について

まず、中学校学習指導要領解説国語編（平成20年9月）における語彙指導の系統を踏まえ、幾つかの文献を基に、語彙力について具体的にとらえようと試みた。

##### (1) 中学校学習指導要領における語彙指導について

中学校学習指導要領（平成20年3月告示）には、第1学年の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)イ(イ)の語句・語彙に関する事項について、「語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨くこと」と示されており、その解説として、中学校学習指導要領解説国語編（平成20年9月）では次のように示されている。

「語感を磨く」ためには、多くの本などを読んで新しく出会った言葉を取り立て、辞書にある様々な意味から文脈上の意味を考えることを習慣化させることが大切である。

このことから、語彙力をとらえるに当たり、語句の「辞書的な意味」と「文脈上の意味」の関係に注目した。また、第2学年及び第3学年の語句・語彙に関する事項に「語感を磨き語彙を豊かにする」とあることから、「辞書にある様々な意味から文脈上の意味を考えることを習慣化させること」は3年間を通して指導することが必要だと考える。

##### (2) 「辞書的な意味」について

「辞書的な意味」については、先に挙げた中学校学習指導要領解説国語編にある記述から、まず、辞書に記述されている語句の意味のことだと言える。当然のことながら、その意味を理解させることが必要である。

さらに、『国語教育指導用語辞典第三版』によると、「語彙とは、言語の基本となる単位の一つである語を、その一つ一つの語としてではなく、語全体をまとまりとしてみる名称である」とあり、「語彙という名称を用いるときには、その要素としての語を個々ばらばらに把握するのではなく、個々の語がなんらかの有機的な関係を持って集合する統一体、つまり体系として把握するという認識が重要になる」とあった。

また、小学校学習指導要領解説国語編（平成20年8月）第3章 第1節 第1学年及び第2学年〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)イ(イ)の事項に次のように示されている。

言葉が小さな意味の単位である語句によって構成され、それらの語句が意味のまとまりによって語句の集合体（語彙）になっていることに気付くことを示している。

「意味による語句のまとまり」とは、ある語句を中心として、同義語や類義語、対義語など、その語句と様々な意味関係にある語句が集まって構成している集合である。

つまり、「辞書的な意味」における語彙指導においては、次の二つのことが必要だと言える。

- ・個々の語句のもつ、辞書に記述されている意味を理解させること。
- ・意味による語句のまとまりを体系の中で把握させること。

##### (3) 「文脈上の意味」について

「文脈上の意味」については、中学校学習指導要領解説国語編（平成20年9月）第3章 第1節 第1学年〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)イ(イ)の事項に次のように示されている。

語句の「文脈上の意味」は、辞書的な意味を踏まえ、思考力や想像力を働かせて文脈において具体的かつ個別的にとらえることになる。また、語句が文章の中で果たしている役割を考えることも大切である。

このことから、「文脈上の意味」における語彙指導においては、次の二つのことが必要だと言える。

- ・語句がもっている幾つかの「辞書的な意味」の中で、この文脈においては、どの意味で使われているのかを選定させること。
- ・「語句が文章の中で果たしている役割」について考えさせること。

この「語句が文章の中で果たしている役割」については、櫻井英子が『言語学基本問題集』で次のよう

に述べていることが参考になる。

「太郎の姉は女優だ」という文を例に考えると、「姉」という語は、「母」「妹」「娘」などの語と女性の親族を表すという点で共通している一方、世代・年齢の点で異なっている。このような文中で直接表されていない他の語との関係をパラディグマティック（連合的・範列的）な関係と言う。これに対して、「太郎」と「姉」と「女優」の間の関係のような文中の他の語との間の横の関係を、シンタグマティック（統合的・連辞的）な関係と言う。（櫻井英子，2008）

ここで解説されている「シンタグマティックな関係」とは、文の内容を決める、語句と語句の結び付きによる意味だととらえた。そして、この「シンタグマティックな関係」が「語句が文章の中で果たしている役割」だと考える。

また、「パラディグマティックな関係」とは、「(2)『辞書的な意味』について」で述べた、意味による語句のまとまりの体系ととらえた。

#### (4) 本研究での語彙力のとらえ方

以上のことから、語彙指導には「辞書的な意味」における語彙指導と「文脈上の意味」における語彙指導があると考えられる。そして、「辞書的な意味」における語彙指導では、辞書に記述されている語句の意味を理解させることと、意味による語句のまとまりを体系の中で把握させることが必要である。また、「文脈上の意味」における語彙指導では、文脈において使われている語句の意味を選定させることと、文脈の中の語句と語句の結び付きによる意味をとらえさせることが必要である。

このことから、本研究では語彙力を次のような四つの力の総称であるととらえ、研究を進めていく。

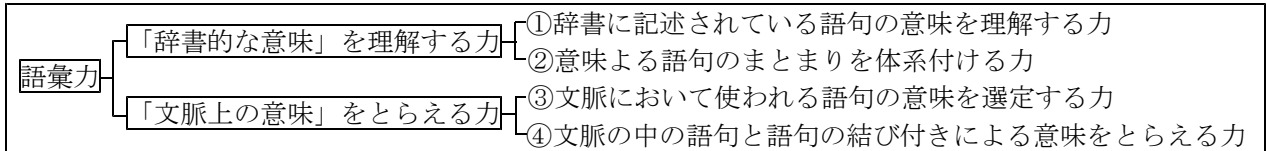


図1 語彙力のとらえ方

なお、小・中学校学習指導要領（平成20年3月告示）における語彙指導の系統と、本研究でとらえた語彙力を関連付けたものが表1である。

小学校第1学年及び第2学年では語彙力の①、②に気付かせ、第3学年及び第4学年では語彙力の①、②を、第5学年及び第6学年では語彙力の①～④を指導していくような系統になると考える。

また、中学校においては、小学校での語彙指導を基礎にして、第1学年では身近な語句、第2学年では抽象的な語句や類義語、対義語など、第3学年では慣用句や四字熟語を取り上げ、各語句の理解を深めて活用していくことで、語感を磨き語彙を豊かにする指導をしていくような系統になると考える。

表1 小・中学校の学習指導要領における語彙指導の系統

	学 年	イ 言葉の特徴やさまじりに関する事項	語彙力
小 学 校	第1学年及び第2学年	(ウ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。	①②
	第3学年及び第4学年	(ハ) 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。	①②
		(ニ) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。	①②
中 学 校	第5学年及び第6学年	(イ) 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。	①②
		(ホ) 文章の中での語句と語句との関係を理解すること。	③④
	第1学年	(イ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。	①②③④
中 学 校	第1学年	(イ) 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨くこと。	①②③④
	第2学年	(ウ) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章中の語彙について関心をもつこと	①②③④
		(イ) 抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。	①②③④
第3学年	(イ) 慣用句・四字熟語などに関する知識を広げ、和語・漢語・外来語などの使い分けに注意し、語感を磨き語彙を豊かにすること。	①②③④	

## 2 俳句の学習と語彙力の関係について

俳句の学習と語彙力の関係については藤井圀彦の『俳句の授業、俳句の技法—どう教え、どう作るか—』の次の記述が参考になった。

俳句では、上五、中七、下五のそれぞれのフレーズが、意味の根底の部分で微妙につながっていて、その両者の響き合いによって、一挙に文芸性を高めることが試みられています。

・卒業歌窓辺を小鳥飛び立り

この句において、卒業歌と小鳥が飛び立ったということには、直接的には何の関係もありません。しかし、「卒業」という語と「飛び立つ」という語が、卒業生の未来を暗示するので、あたかも、卒業生

が広い世界へ巣立っていくようなイメージを描かせます。すなわち、二語の響き合いが、新しい文芸的美を生み出したことになるのです。(藤井圀彦, 1998)

このことから、「響き合い」とは作品中の語句と語句の結び付きにより新たに生まれる意味だとらえた。この「響き合い」を考えることが、「文脈上の意味」とらえることになる。また、「響き合い」を考えるためには、語句のもっている意味を理解することが必要になる。

以上のことから、俳句の鑑賞や創作をする際には、「辞書的な意味」を理解する活動と「文脈上の意味」とらえる活動ができ、語彙力を高めることができると思う。

### 3 語彙力を高める学習活動の工夫

#### (1) 語彙指導における三段階の学習活動の工夫

「辞書的な意味」における語彙指導と「文脈上の意味」における語彙指導の両方を行うことができる学習活動として、宮島達夫の三段階の指導が参考になった。その三段階とは、語句の意味を、①「文章のなか」でとらえる→②「言語の体系のなか」でとらえる→③「もう一度文章のなか」でとらえるというものである。そして、宮島はそれぞれの段階で次のような活動が必要であると述べていた。

- ・「文章のなか」…語句の意味を「前後の文脈からある程度の見当をつける」活動。
- ・「言語の体系のなか」…「単語の意味をことばで説明する」活動と「単語を言語の意味体系のなかで位置づける」活動。
- ・「もう一度文章のなか」…「単語の意味と、場面や文脈からえられる知識とをからみあわせて、その単語がなにをさしているかをよみとる」活動。

この「言語の体系のなか」の活動では「辞書的な意味」における語彙指導が、「もう一度文章のなか」の活動では「文脈上の意味」における語彙指導ができる。そこで、俳句の鑑賞の学習において、語彙力を高めるために、次のような三段階の学習活動を設定することが効果的だと考える。

- ・第一段階…作品の文脈から語句の意味を推測する活動。
- ・第二段階…語句の意味を辞書で確認し、類義語や対義語などと体系付けて理解する活動。
- ・第三段階…作品中の語句と語句の結び付きによる意味を考え、作品の情景を記述する活動。

#### (2) 意味マップを取り入れたワークシートの工夫

##### ア 意味マップの活用

上記の第二、第三段階の活動において使用するワークシートに意味マップを取り入れることにした。塚田泰彦は、「語彙の習得とは、いわば自らの既有的語彙体系のなかにその学習者なりの取り入れ方でその語を位置づけることである」とし、意味マップの効果を次のように述べている。

子ども一人ひとりがすでに習得している語彙の体系をどう呼び覚まし、それをどう生かして学習させるか。この要請にこたえるものが意味マップ法である。  
意味マップ法はことばと意味の関係を構造的に表現することを目的とすることもあって、語彙学習の方法としては特に有効に機能する。(塚田泰彦, 2005)

このことから、ワークシートに意味マップを取り入れることによって、語句についての生徒の既知知識と辞書に記述されている意味を関連付けて具体的に意味を理解したり、意味による語句のまとまりを体系付けたりすることができると思う。

##### イ 意味マップを取り入れたワークシートの工夫

「辞書的な意味」と「文脈上の意味」を1枚のシートに記入できるように、図2のようなワークシート(以下、鑑賞マップ)を作成した。

「辞書的な意味」の記述は、語句の周りのAのスペースに、「文脈上の意味」の記述は、点線の内側のBのスペースに記入できるようにした。

また、それぞれのスペースには次のようなことを記入することにした。

##### Aのスペース

- ・語句の上部には、語句についての既知知識として、語句の意味や例文、連想したこと

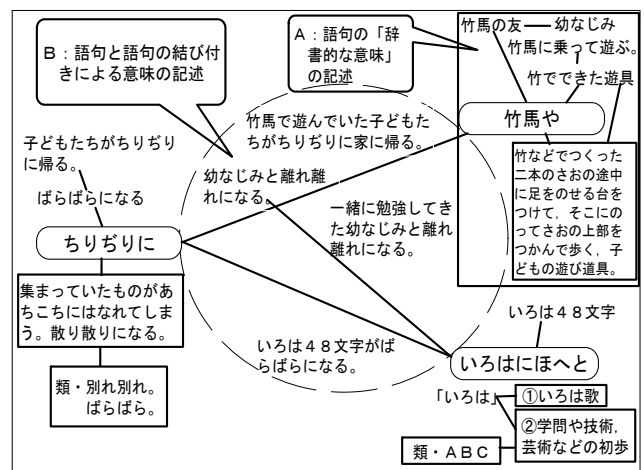


図2 鑑賞マップの記入例「竹馬やいろはにほへとちりぢりに」

を記入する。

- ・ 語句の下部には、辞書に記述されている意味や類義語・対義語などを記入する。

Bのスペース

- ・ 語句と語句の結び付きから考えられる意味を記入する。

記入に際しては、Aのスペースから書き始め、そこに記入した内容を踏まえて、Bのスペースを記入する。また、自分の考えは鉛筆で記入し、辞書に記述されている意味や他の生徒の意見は赤ペンで記入することにした。さらに、辞書の記述と他の生徒の意見を区別するため、辞書の記述を赤ペンで囲むことにした。Bのスペースは、すべての結び付きについて記入するのではなく、語句と語句の結び付きから意味が考えられる箇所のみを記入することにした。

#### ウ 鑑賞マップの段階的な指導

鑑賞マップの記入は、生徒にとってやや難しい作業だと思われるので、その記入に慣れさせるために次のように指導を工夫した。

鑑賞マップのAのスペースのみの意味マップA（図3）とBのスペースのみの意味マップB（図4）を用意し、段階的に書き方を指導することにした。

また、語句の「辞書的な意味」をとらえることに適していると考えられる作品、語句と語句の結び付きによる意味をとらえることに適していると考えられる作品、その両方に適していると考えられる作品を例に挙げて、俳句の鑑賞の学習を行うことにした。

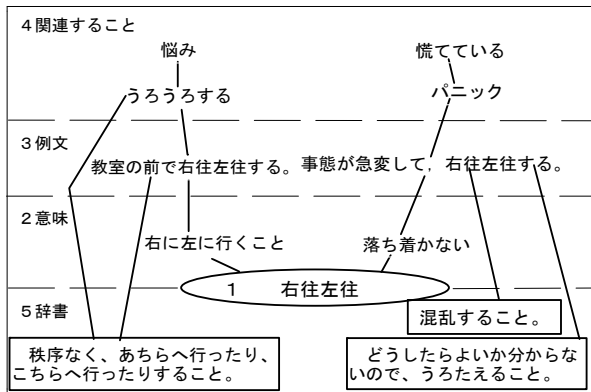


図3 意味マップA

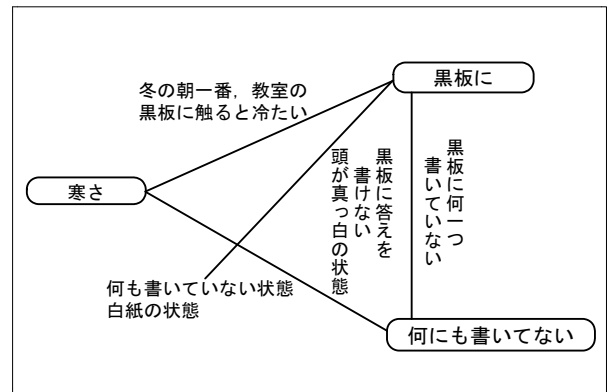


図4 意味マップB

#### エ 俳句の創作の学習における意味マップを取り入れたワークシートの活用

意味マップを取り入れたワークシートを活用することで、俳句の創作の学習においても語句の「辞書的な意味」と「文脈上の意味」を意識させることができると考える。図5はそのワークシート（以下、創作マップ）の記入例である。

まず、生徒に作品のイメージの基になる写真を見せて、そこに写っている物や風景を表す語句、そこからイメージした語句を三語以上記入させる。生徒は、その語句の「辞書的な意味」、さらに、語句と語句の結び付きによる意味を記入し、図6のように自分がイメージした内容に適した語句を吟味して、俳句を創作するのである。

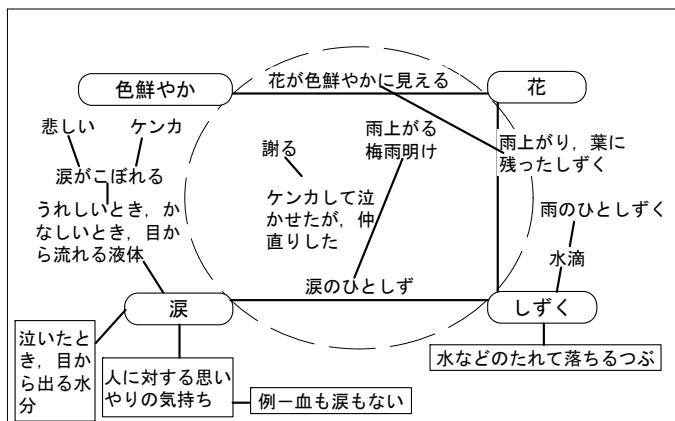


図5 創作マップの記入例

梅雨明け	ひとしずく	ひとしずくごめんと言梅雨明け
ケンカして	一言謝る	
葉にひとしずく	一言ごめん	
	梅雨明け	
	光るつぶ	

図6 語句の吟味と作品

#### 4 検証事業の実施

##### (1) 検証授業の対象生徒及び実施期間

ア 対象生徒 : つがる市立稲垣中学校 第3学年A組(25名), B組(24名)

イ 実施期間 : 平成21年6月1日～6月14日(10日間)

##### (2) 検証授業の指導計画

次	主な学習活動	
1次	1時間目	・俳句のきまりの確認 ・本学習で取り上げる三つの俳句の情景の記入 ・意味マップAの記入方法の確認と練習
2次	2時間目	・「荖右往左往菓子器のさくらんぼ 高浜虚子」の鑑賞 ・第二段階の活動(意味マップA) ・意味マップBの記入方法の確認と練習
	3時間目	・「黒板に何にも書いてない寒さ 菊池奈々」の鑑賞 ・第三段階の活動(意味マップB) ・鑑賞マップの記入方法の確認と練習
	4時間目	・「竹馬やいろはにほへとちりぢりに 久保田万太郎」の鑑賞 ・第二・三段階の活動(鑑賞マップ)
3次	5時間目	・写真を基にした俳句の創作(創作マップ)
4次	6時間目	・創作した俳句の鑑賞
	7時間目	・鑑賞したことの交流
5次	8時間目	・学習の振り返りと語句について知識の変容の確認

実際は、この計画通り授業を進めることができなかった。1時間目の俳句のきまりを確認することと、意味マップの記入に思った以上に時間がかかったため、計画を大きく変更した。結果的に、鑑賞の段階では3時間目、創作の段階では7時間目と8時間目の活動ができなかった。

##### (3) 生徒の変容とその考察

ア 「辞書的な意味」の理解について

意味マップAを活用して、「荖右往左往菓子器のさくらんぼ」の俳句について、「右往左往」の意味のとりえ方がどのように変化したかを確認するため、意味マップA記入前と後に作品の情景について生徒に書かせた記述を比較した。その結果をまとめたのが図7である。

「右往左往」の意味を正しくとらえて記述をしている生徒は、意味マップA記入前では、45人(欠席等4人)中12人であった。それが、意味マップA記入後では、44人に増えていた。

さらに、「右往左往」のとりえ方を見ると、意味マップA記入前では、12人全員が「左右に動く」という意味でとらえていた。それが、意味マップA記入後には、「左右に動く」という意味が18人、「精神的な揺れ動き」を表す意味が15人、「菓子器の中の荖の状態」を表す意味が8人、「菓子器の中の荖の状態」を表す意味と「精神的な揺れ動き」を表す意味の両方が3人と、とりえ方が多様化していることが分かった。

生徒の既有知識と辞書の記述、他の生徒の考えを記入して関連付けたことで、「右往左往」の語句の意味の理解が深まり、それに伴って作品の情景をより具体的にイメージできるようになり、さらに、多様なとりえ方が出てきたと考えられる。

イ 「文脈上の意味」のとりえ方について

(ア) 鑑賞マップの記述から

「竹馬やいろはにほへとちりぢりに」の俳句について、鑑賞マップを活用して作品中の語句の「文脈上の意味」をとらえることができたかを確認した。この鑑賞マップでは、Bのスペースのうち二箇所以上に語句と語句の結び付きによる意味を記入することで、作品中の三つの語句の「文脈上の意味」を確認することができるようになっている。

生徒の記述を見ると、39人(欠席等10人)全員が鑑賞マップのBのスペースに二箇所以上の記述をし

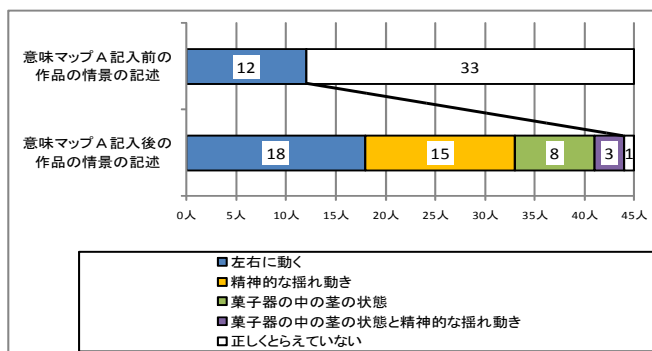


図7 「右往左往」のとりえ方の変化

ていた。このことから、39人全員が作品中の三つの語句の「文脈上の意味」を自分なりにとらえることができたと考えられる。

(イ) 作品の情景の記述から

鑑賞マップに記入した語句と語句の結び付きによる意味を情景の記述に生かしているかを確認するため、鑑賞マップ記入前と後に作品の情景について生徒に書かせた記述を比較した。その結果をまとめたものが表2である。

表2 文脈上の意味をとらえた記述

作品の情景の記述	鑑賞マップ記入前	鑑賞マップ記入後
三つの語句	3人	27人(6人)
二つの語句	3人	5人
書けなかった	33人	1人

作品中の三つの語句の「文脈上の意味」をとらえて情景を記述できた生徒が3人から27人に増えた。「鑑賞マップ記入後」の( )内の数字は情景の記述の内容が適切でない生徒数である。

鑑賞マップに語句と語句の結び付きによる意味を記入したことで、語句が作品中で表現している意味を考えることができ、それを情景の記述に生かすことができたと考えられる。

ただし、中には辞書で確認した意味に合わせて強引な解釈をしているものがあつた。これは、語句の意味を辞書だけで確認させたことと、類義語と比較させて、語句がもっている意味の違いを確認させなかったことが原因だと考えられる。

ウ 創作マップを活用した俳句の創作について

(ア) 創作マップを活用して創作した作品例

生徒の作品と創作マップの記述を見ると、語句の意味や語句と語句の結び付きによる意味を意識して俳句を創作していた生徒が見られた。例えば、図9のように、「ハート」と「赤」を結び付けて「情熱的な恋」という意味を考え、その「情熱的な恋」と「鮮やか」を結び付けて「恋をして生き生きしている」という意味を考えている。そして、創作マップで考えた語句と語句の結び付きによる意味から俳句を創作している。このように、語句と語句の結び付きによる意味から俳句を創作していた生徒は、40人中21人であった。

しかし、完成した作品の中には、季語が入っていないものもあつた。これは、創作の学習において、語句と語句の結び付きによる意味を考えさせることを意識しすぎて、季語を意識させる指導が不十分だったことが原因と考えられる。また、鑑賞の学習においても、俳句の中での季語の効果について十分に触れていなかったことも原因と考えられる。

(イ) 創作した作品の鑑賞例

生徒が創作したすべての作品を一覧表にして配付し、その中から一句選ばせて、その作品を鑑賞した文章を書かせた。その中には、次のように作品中の語句の意味や語句と語句との結び付きによる意味に着目した記述が見られた。(引用部の囲み、波線は筆者)

「がんばれと梅雨の心に日の光」について

「梅雨の心」から、何か悲しいことがあつて、優しい言葉を誰かから掛けられている様子を俳句にしている。とてもくらい気持ちが一言で晴れていくような感じに表現されている。一言「がんばれ」というだけでスッキリした空のようになっていく表現がされている。

この作品の良さは、「がんばれ」と「日の光」から優しく声かけていることと、「梅雨の心」からどんよりした気持ちから、「日の光」で暗闇の中の一すじの光がさしていることがよく分かる。

作品例

「真っ赤だねトマトもきっと恋してる」



図8 提示した写真

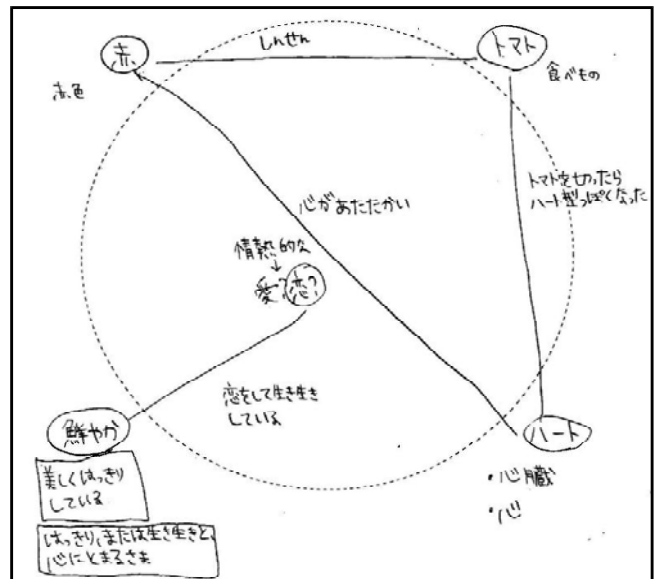


図9 図8を基に生徒が書いた創作マップ

このように、作品中の語句の意味や語句と語句の結び付きによる意味に着目した記述がある生徒の割合は、指導計画の1次で書かせた例に挙げた作品の情景の記述では、全記述141のうち4%であったが、4次で書かせた友達の作品を鑑賞した文章の記述では、全記述49のうち49%に増えていた。

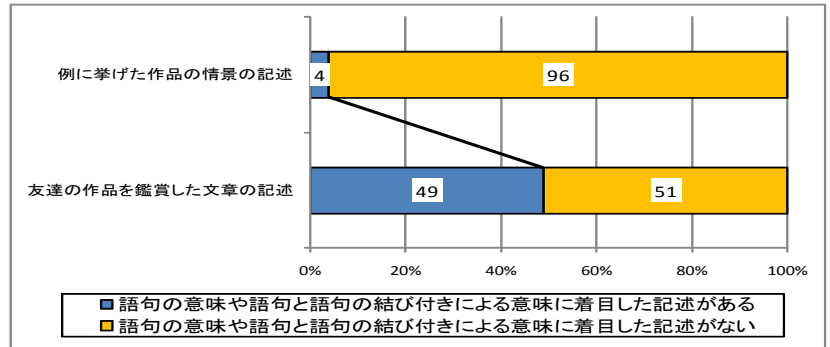


図10 語句の意味や語句と語句の結び付きによる意味に着目した記述の変化

## V 研究のまとめ

本研究の成果を検証したところ、次のように語彙力の向上が見られた。

### 1 「辞書的な意味」を理解する力の向上

作品の情景を記述した文章を分析したところ、作品中の語句の意味のとらえ方が多様化していることが分かった。これは、意味マップを取り入れたワークシートに、作品中の語句について、生徒の既有知識と辞書に記述されている意味、他の生徒の考えなどを関連付けて記入することにより、「辞書的な意味」を理解する力が向上したためであると考えられる。

### 2 「文脈上の意味」をとらえる力の向上

作品の情景を記述した文章を分析したところ、作品中の語句の「文脈上の意味」をとらえた記述が増加したことが分かった。また、俳句の創作や友達の作品を鑑賞した文章においても、「文脈上の意味」を意識できるようになってきた。これは、意味マップを取り入れたワークシートを用いて語句と語句の結び付きを考えることで、「文脈上の意味」をとらえる力が向上したためであると考えられる。

## VI 本研究における課題

- ・今回の検証授業では、語句の意味の理解が不十分なため、強引な俳句の解釈をする生徒が見られた。そのため、語彙力の②の力を高めるための活動として、類義語や対義語などの語句を比較させ、それぞれの語句の意味の違いを確認させる活動を行うことが必要である。
- ・鑑賞マップに記入した内容を、作品の情景の記述に生かせない生徒がいた。そのため、記述の仕方のモデルを提示するなどの工夫をする必要がある。
- ・創作した作品に季語が入っていないものが見られた。そのため、創作の学習において、創作マップで季語になる語句を赤ペンで囲ませたり、鑑賞の学習において、鑑賞マップや情景の記述の中で季語の効果を考えさたりするなど、季語に意識を向けさせる指導が必要である。

### (引用文献)

- 文部科学省 2008 『中学校学習指導要領（平成20年3月告示）』, p. 22  
 文部科学省 2008 『中学校学習指導要領解説 国語編（平成20年9月）』, p. 41  
 文部科学省 2008 『小学校学習指導要領解説 国語編（平成20年8月）』, p. 45  
 田近洵一・井上尚美編 2004 『国語教育指導用語辞典 第三版』, p. 24, 教育出版  
 佐久間淳一編 2008 『言語学基本問題集』, p. 135, 研究社  
 藤井園彦 1998 『俳句の授業・俳句の技法—どう教え、どう作るか—』, p. 28, 明治図書  
 宮島達夫 1968 『単語指導ノート』, p. 17, p. 11, p. 23, p. 18, p. 11, p. 21, p. 23, むぎ書房  
 塚田泰彦 2005 『国語教室のマッピング 個人と共同の学びを支援する』, p. 37, 教育出版

### (参考文献)

- 角川学芸出版編 2007 『俳句歳時記 第四版 夏』 角川学芸出版  
 藤井園彦 1998 『俳句の授業・俳句の技法—どう教え、どう作るか—』 明治図書  
 八木健 2002 『教師のための俳句読本』 蝸牛新社